

Japanese Hospital and
Community Psychiatry
Association

58th

y&c hi
@Tokyo

**第58回日本病院・地域精神医学会総会
東京多摩総会**

抄録集

2015年11月6日(金)-7日(土)

**パルテノン多摩
(東京都多摩市)**

第58回

日本病院・地域精神医学会総会
抄録集

「強制」から「協働」へ

～パラダイムシフトへの序章～

会 期： 2015 年 11 月 6 日（金） 9：30 ～ 17：40（18：00 ～ 夜間交流集会・懇親会）
11 月 7 日（土） 9：30 ～ 16：15

会 場： パルテノン多摩
東京都多摩市落合 2-35（多摩センター駅より徒歩 5 分）

主 催： 日本病院・地域精神医学会
第 58 回総会

大 会 長： 岩下 覚 （社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院）
副大会長： 長谷川 利夫 （杏林大学保健学部作業療法学科精神障害作業療法学研究室）
事務局長： 佐藤 康一 （社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 桜ヶ丘記念病院）

事 務 局： 〒206-0021 東京都多摩市連光寺 1-1-1 桜ヶ丘記念病院内
第 58 回日本病院・地域精神医学会総会 事務局

F A X： 042-338-0681

E m a i l： byochi58tama@nifty.com

大 会 H P： <http://byochi58tama.sakura.ne.jp/>

参 加 費： 事 前 登 録： 会員 8,000 円 非会員 9,000 円
当 日 参 加： 会員 9,000 円 非会員 10,000 円
当事者・家族・学生： 2,000 円
懇 親 会： 4,800 円（申し込み順・定員有り）
市 民 公 開 講 座： 無 料

事前参加登録： 大会 HP の参加登録ページより事前登録をお願いいたします。
受付期間は 9 月 23 日（水）～10 月 25 日（日）です。

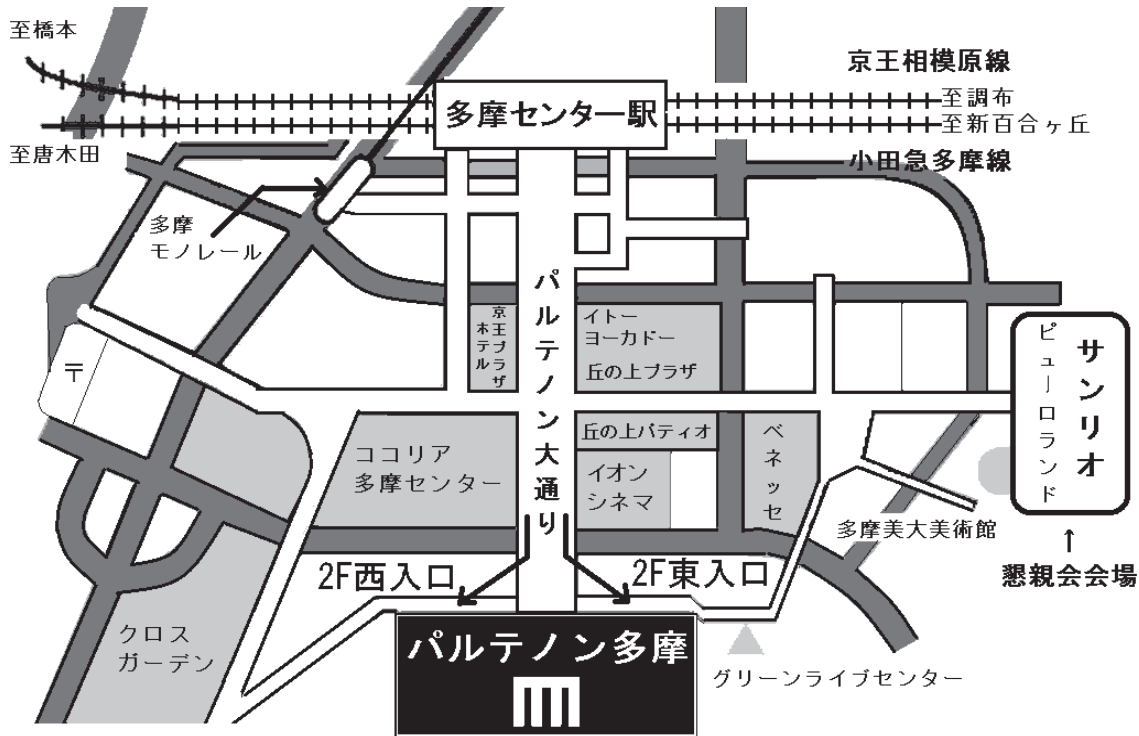
本学会総会は次のポイントの対象となります

- ◆ 日本精神神経学会専門医 資格更新に関する研修ポイント
- ◆ 日本作業療法士協会 生涯教育基礎研修ポイント
- ◆ 日本病院薬剤師会 精神科薬物療法認定ポイント

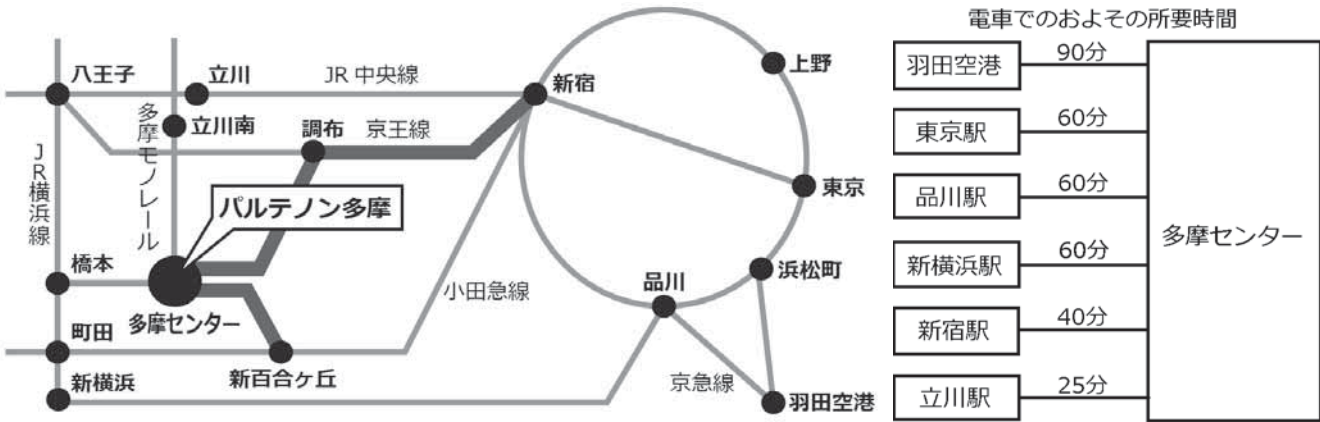
会場へのアクセス

京王線・小田急線・多摩モノレール 多摩センター駅下車 徒歩 5 分

京王線中央改札口、小田急線改札西口より左へ パルテノン大通り（遊歩道）つきあたり

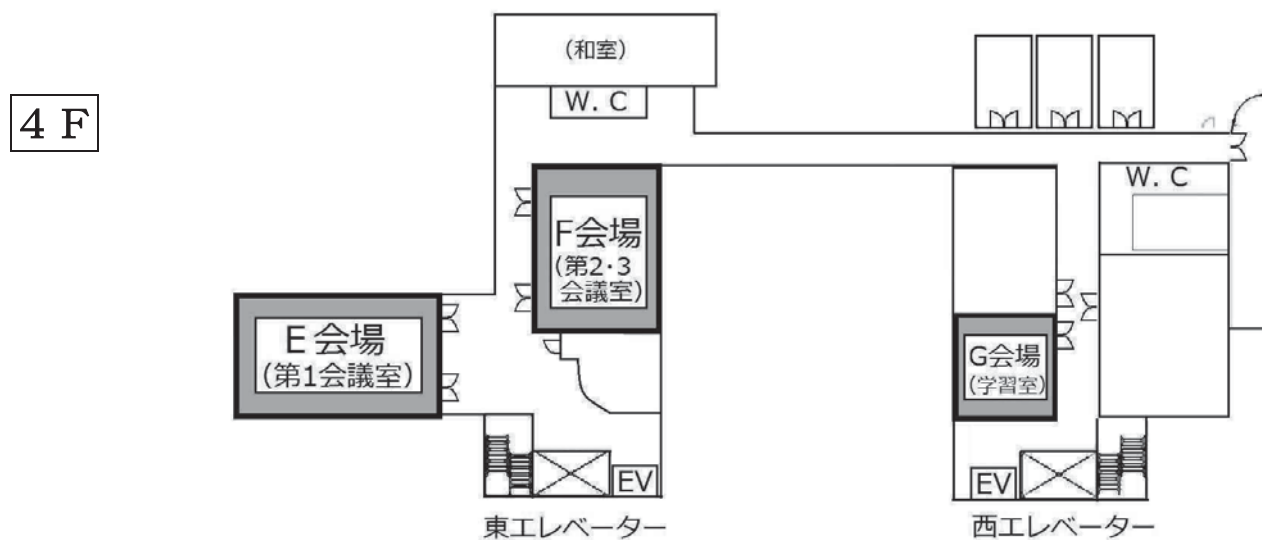
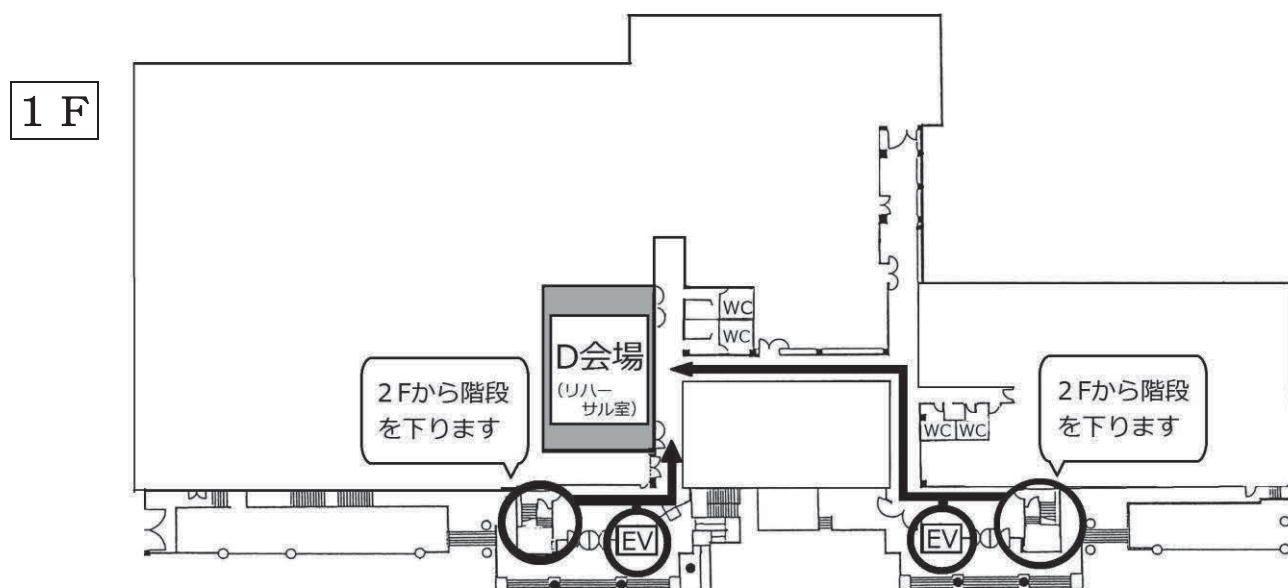
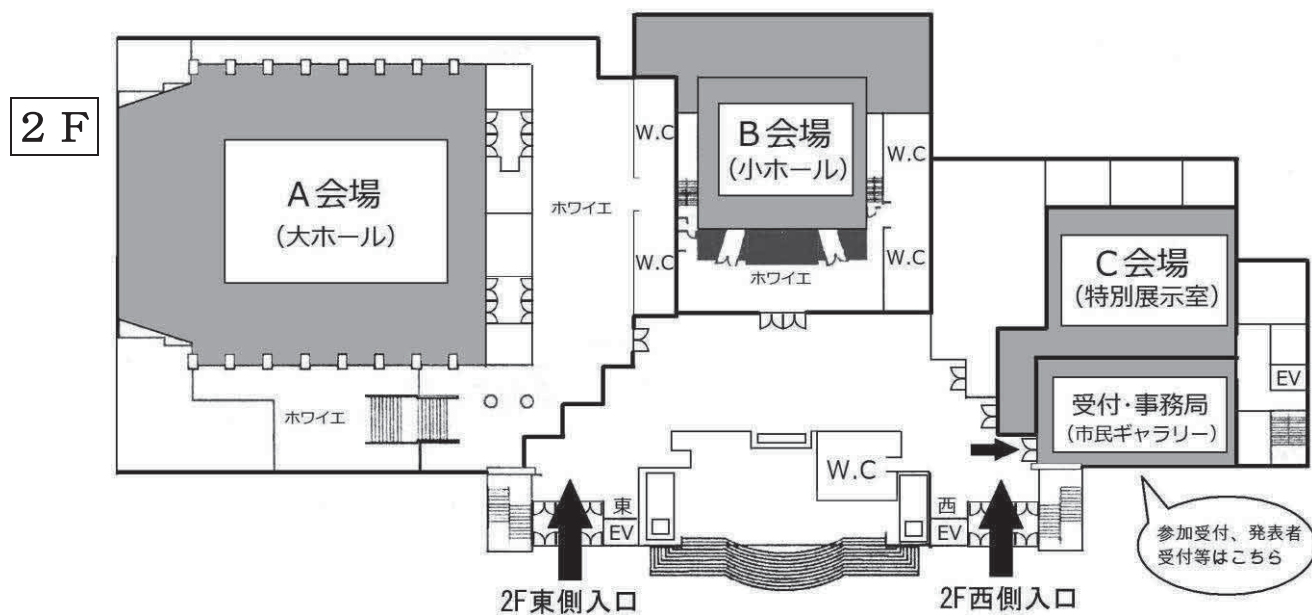


羽田空港から多摩センター駅までリムジンバス（所要時間：75～120 分）も運行しています。



- ◆ 京王相模原線・京王新線（都営新宿線乗入れ）・京王井の頭線
 新宿駅から急行「橋本」行き直通約 40 分
 新宿駅から特急／準特急「京王八王子／高尾山口」行き、調布駅で「橋本」行き乗換で約 35 分～40 分
 調布駅から「橋本」行き約 15 分
 橋本駅から調布方面行き約 15 分
 渋谷駅から京王井の頭線「吉祥寺」行き約 15 分 明大前駅で「橋本」行き乗換で約 35 分
- ◆ 小田急線・小田急多摩線（東京メトロ千代田線乗入れ）
 町田駅から「新宿」行き約 15 分 新百合ヶ丘駅で「唐木田」行き乗換で約 15 分
 表参道駅から多摩急行「唐木田」行き直通約 40 分

会場案内図



第58回日本病院・地域精神医学会総会 日程表

11月6日(金)総会1日目

1日目 6日(金)	2F			
	西側	中央東側	中央	西側
会場名	市民ギャラリー	A会場(大ホール)	B会場(小ホール)	C会場(特別展示室)
9:30	9:15～ 参加受付 学会本部受付			
10:00		9:50～10:20 開会式		
11:00		[I-A1] 10:30～12:00 基調講演 「精神保健医療福祉の動向 ～東京都多摩地域を中心に～」	[I-B1] 10:30～12:00 シンポジウムA 「医療観察法 ～施行10年にあたって～」	[I-C1] 10:30～16:30 活動紹介 展示スペース
12:00		12:05～12:25 浜田賞表彰式		
13:00		[I-A2] 12:45～14:15 教育講演① 「当事者と協働して治療アプローチを決めていく新しい方策 Shared Decision Making (SDM)について」	[I-B2] 12:45～14:15 シンポジウムB(理事会企画) 「隔離・身体拘束の急増に今、何をすべきか？」	
14:00				
15:00		[I-A3] 14:30～16:00 市民公開講座 「挫折・喪失と生き直す条件 ～人生の「物語」を見つめて～」 柳田邦男氏(ノンフィクション作家) ●参加無料、申込不要	[I-B3] 14:30～16:30 教育公演② 「薬物依存症の現状と治療」	
16:00				
17:00			16:50～17:40 総会	
18:00				
19:00				

11月7日(土)総会2日目

2日目 7日(土)	2F			
	西側	中央東側	中央	西側
会場名	市民ギャラリー	A会場(大ホール)	B会場(小ホール)	C会場(特別展示室)
9:30	9:15～ 参加受付 学会本部受付			
10:00				
11:00			[II-B4] 9:30～12:30 斎藤環&向谷地生良トークセッション 「今、なぜオープンダイアログか」	[II-C2] 9:30～16:15 活動紹介 展示スペース
12:00				
13:00				
14:00			[II-B5] 13:30～15:30 シンポジウムD 「パラダイムシフトへの序章 ～専門性を問う～」	
15:00				
16:00			15:45～16:15 閉会式	

11月6日(金)総会1日目

1日目 6日(金)	1F	4F		
会場名	D会場(リハーサル室)	E会場(第1会議室)	F会場(第2・3会議室)	G会場(学習室)
9:30				
10:00	[I -D1] 9:50～10:50 分科会① 住居と地域生活	[I -E1] 9:50～11:20 分科会⑤ 地域支援1	[I -F1] 9:50～10:50 分科会⑧ 児童思春期・メンタルヘルス	
11:00	[I -D2] 11:00～12:15 分科会② チームで進める地域移行		[I -F2] 11:00～12:15 分科会⑨ 法と人権1	
12:00		11:30～13:20 昼食用開放 (予約お弁当引換場所)		
13:00			12:20～13:45 昼食用開放	
14:00	[I -D3] 13:20～14:50 分科会③ 精神科病院での取り組み	[I -E2] 13:35～14:50 分科会⑥ 地域移行の課題と方策		
15:00	[I -D4] 15:00～16:15 分科会④ チーム医療と協働	[I -E3] 15:00～16:30 分科会⑦ 地域支援2	[I -F3] 14:00～16:30 シンポジウムC 「精神医療はハンセン病者の 闘いから何を学ぶか」	[I -G1] 14:30～16:30 (理事会企画) 診療報酬セミナー
16:00				
17:00				
18:00				
19:00		[I -E4] 18:00～20:00 夜間交流集会①	[I -F4] 18:00～20:00 夜間交流集会②	

11月7日(土)総会2日目

2日目 7日(土)	1F	4F	
会場名	D会場(リハーサル室)	E会場(第1会議室)	F会場(第2・3会議室)
9:30			
10:00		[II -E5] 9:40～10:25 分科会⑩ 法と人権2	[II -F5] 9:40～10:25 分科会⑪ 生活習慣病への介入
11:00		[II -E6] 10:30～12:00 特別報告 「東京多摩地区の 精神科病院の現状」	[II -F6] 10:35～11:50 分科会⑫ デイケアの取り組み
12:00		12:00～13:20 昼食用開放 (予約お弁当引換場所)	
13:00			
14:00		[II -E7] 13:30～15:30 精神科薬剤師セミナー「精神科 病院薬剤師の過去と未来ー過去 の検証から精神科病院薬剤師の 未来を考えるー」 (薬剤師以外も参加できます)	
15:00			
16:00			

両日とも、4F西側:カフェ、5F西側:地中海料理レストラン 営業あり(どちらもランチ可) 5Fから隣接の中央公園へ出口あり

大会プログラム

1 1 月 6 日（金）総会 1 日目

A 会場（2F 大ホール）

◆開会式（9：50～10：20）

I－A 1 ◆基調講演（10：30～12：00）

P25

「精神保健医療福祉の動向～東京都多摩地域を中心に～」

座 長 : 岩下 覚（桜ヶ丘記念病院 院長）
講 師 : 熊谷 直樹（東京都立多摩総合精神保健福祉センター 所長）

◆浜田賞表彰式（12：05～12：25）

東京都地域精神医療業務研究会

I－A 2 ◆教育講演①（12：45～14：15）

「当事者と協働して治療アプローチを決めていく新しい方策

Shared Decision Making（SDM）について」

座 長 : 吉尾 隆（東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室 教授）
講 師 : 渡邊 衡一郎（杏林大学医学部精神神経科学教室 教授）

I-A3 ◆多摩市医師会共催 市民公開講座（14：30～16：00） ※参加無料、申込不要

「挫折・喪失と生き直す条件～人生の「物語」を見つめて～」

座 長 : 佐藤 忠彦 （社会福祉法人桜ヶ丘社会事業協会 理事長）

講 師 : 柳田 邦男 （ノンフィクション作家、評論家）

ノンフィクション作家、評論家

1936年 栃木県鹿沼市生まれ。

1960年 東京大学経済学部卒業、NHK 記者に。

1974年 退職して作家活動に。

災害・事故・公害や戦争、病気と医療、少年事件など現代における「いのちの危機」をテーマに取材・研究・執筆活動をしている。最近は震災と原発事故の問題、被害者の精神史、核家族化とネット社会の進行による子どもの人格形成の危機の問題などに取り組んでいる。

主な受賞に、1979年『ガン回廊の朝』で第1回講談社ノンフィクション賞、1995年『犠牲（サクリファイス）わが息子・脳死の11日』とノンフィクションジャンルへの貢献で第43回菊池寛賞など多数。近著に『私は9歳の時から死と向き合ってきた』、『終わらない原発事故と「日本病」』（新潮社）、『新・がん50人の勇気』（文藝春秋）、『言葉が立ち上がる時』（平凡社）などがある。

I-B1 ◆シンポジウム A (10:30~12:00)

P26-29

「医療観察法～施行10年にあたって～」

今年には心神喪失者等医療観察法が施行されてから10年目を迎える。学会は、この法律に反対の立場を表明してきた経緯がある。そこで、この機会に今10年を経た心神喪失者等医療観察法の実態について検証したいと考える。評価出来る点や問題と思われる点を挙げていただき、改廃を含めてどのように考えるべきなのかを議論したい。

- 座長 : 中川 実 (こころのクリニック西尾 医師)
 : 村松 太郎 (慶應義塾大学精神神経科学教室 准教授)
 シンポジスト : 中根 潤 (独立行政法人 国立病院機構下総精神医療センター 医師)
 : 中島 直 (医療法人社団新新会 多摩あおば病院 医師)
 : 池原 毅和 (東京アドヴォカシー法律事務所 弁護士)
 : 医療観察法元当事者

I-B2 ◆シンポジウム B (理事会企画) (12:45~14:15)

P30-34

「隔離・身体拘束の急増に今、何をすべきか？」

我が国の精神科病院において、隔離や身体拘束を受ける患者数の増加が止まらない。精神保健福祉資料(630調査)によると、2012年6月30日現在隔離されている患者は9791人、身体拘束を受けている患者は9695人である。これは、隔離は1998年比1.32倍、身体拘束はデータのある最も古い2003年比1.89倍である。本シンポジウムでは、厚労省の方にも入って頂き、まずは調査結果等に基づいた様々な実態を共有していきたい。さらに今年は、医療の立場の方に加え、身体拘束廃止の活動を行っている介護の立場の方にも加わっていただくこととした。より多層的に、隔離・身体拘束の縮減に向けた方策を検討していくこととしたい。

- 座長 : 山下 俊幸 (京都府立洛南病院 院長)
 シンポジスト : 長谷川 利夫 (杏林大学保健学部作業療法学科精神障害作業療法学研究室 教授)
 : 関口 明彦 (全国「精神病」者集団 運営委員 当事者)
 : 上野 秀樹 (敦賀温泉病院 医師
 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 特任准教授)
 : 木村 聡 (介護老人保健施設アルボース 介護福祉士)
 : 野上 毅 (厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
 精神・障害保健課 心の健康づくり対策官)

I-B3 ◆教育講演②（14：30～16：30）

P35

「薬物依存症の現状と治療」

座 長 : 久江 洋企 （桜ヶ丘記念病院 医師）

講 師 : 松本 俊彦 （国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
薬物依存研究部 部長／自殺予防総合対策センター 副センター長 医師）

◆総会議事（16：50～17：40）

C会場（2F 特別展示室）

I-C1 ◆活動紹介・展示スペース（10：30～16：30）

I-D1 ◆分科会① 住居と地域生活 (9:50~10:50)

P36-39

座長 : 高島 眞澄 (NPO 法人茨城県精神障害地域ケア研究会 PSW)

演題番号 「精神障害者の部屋の借りづらさ」に対する取り組みについて

I-D1-1 ~中野区地域生活支援センターにおける居住サポート事業の実践から~

志村 敬親 (中野区地域生活支援センターせせらぎ PSW)

I-D1-2 若者グループホームを増やそう! ~心のケアが必要な若者のための GH「キキ」実践を通しての提言~

西隈 亜紀 (NPO 法人東京フレンズ グループホーム・キキ PSW)

I-D1-3 「二人以上職場」の定員6名小規模グループホームの持つ可能性

~いちごLiving10年間の実践から

山口 さとる (いちごLiving 臨床心理士)

I-D1-4 長期入院から地域での生活に移行した人が感じる「地域生活」と「病院内の生活」の違い

~真の地域生活とは何か?

長谷川 利夫 (杏林大学保健学部作業療法学科精神障害作業療法学研究室 教授)

I-D2 ◆分科会② チームで進める地域移行 (11:00~12:15)

P40-44

座長 : 板橋 充 (七生病院 院長)

: 片所 裕介 (稲城台病院 PSW)

I-D2-1 多職種連携チームによる退院支援の取り組み①~個別退院支援チームによる退院支援の仕組みづくり~

真嶋 信二 (駒木野病院 作業療法士)

I-D2-2 多職種連携チームによる退院支援の取り組み② ~個別退院支援チームの介入事例報告~

真嶋 信二 (駒木野病院 作業療法士)

I-D2-3 急性期における「退院支援チーム」の実践報告

田並 義正 (医療法人郷の会 紀の郷病院 看護師)

I-D2-4 長期入院患者の自宅退院に向けて

~当院規定療養病棟用退院連携シート・ストレングスマッピングシートを用いて~

金内 幸男 (特定医療法人清和会 鹿沼病院 看護師)

I-D2-5 アルコール依存症と多発性神経炎が合併したA氏に対する、仮設住宅移行への多職種支援の取り組み

東條 千春 (舞子浜病院 作業療法士)

I-D3 ◆分科会③ 精神科病院での取り組み（13：20～14：50）

P45-50

座 長 : 馬場 克司 (岩手県立南光病院 医師)

- I-D3-1 一般急性期型精神科病院での物質使用障害治療の試み
中島 直 (医療法人社団新新会 多摩あおば病院 医師)
- I-D3-2 統合失調症慢性期における抗精神病薬減薬プロトコールの試み
石田 雄介 (宮城県立精神医療センター 薬剤師)
- I-D3-3 行動制限最小化に向けた委員会の取り組み
行動制限最小化委員会の運営を改革してきた経緯と変化について
加茂 有紀浩 (医療法人稲門会 いわくら病院 看護師)
- I-D3-4 医療観察法処遇終了後の支援実践報告
秋場 優貴 (桜ヶ丘記念病院 PSW)
- I-D3-5 精神科病院における長期入院者の退院支援の実践
山口 泰臣 (医療法人成精会 刈谷病院 PSW)
- I-D3-6 精神科病院における障害者雇用に関する実践報告
新井山 克徳 (駒木野病院 PSW)

I-D4 ◆分科会④ チーム医療と協働（15：00～16：15）

P51-55

座 長 : 大賀 達雄 (カウンセリングルーム赤羽 心理)

- I-D4-1 ユニット
原 達哉 (七生病院 看護師)
- I-D4-2 合同会議・考 ―きょうどうの意味―
今野 正裕 (南埼玉病院 PSW)
- I-D4-3 質問紙調査の結果から チーム医療の中で求められる作業療法の役割
小木曾 大輔 (医療法人桜桂会 犬山病院 作業療法士)
- I-D4-4 長期入院患者が持つ希望を知るための質問紙調査 ～希望から行動する意欲へ変えるために～
佐藤 清美 (医療法人桜桂会 犬山病院 看護師)
- I-D4-5 精神科病棟における患者参加型ケアと病棟特性に関するクロスセクショナル調査
小松 容子 (宮城大学看護学部 看護師)

I-E1 ◆分科会⑤ 地域支援1 (9:50~11:20)

P56-61

座長：香山 明美 (宮城県立精神医療センター 作業療法士)

- I-E1-1 地域精神医療に薬剤師が関わるということ ～地域で働くスタッフへのアンケート調査の結果から～
鈴木 徹士 (医療法人社団康心会 湘南東部総合病院 薬剤師)
- I-E1-2 地域におけるリカバリー志向による家族心理教育の実践
内山 繁樹 (関東学院大学看護学部 看護師)
- I-E1-3 「包括型地域生活支援プログラム」従事者が心理職に求めること－質問紙調査を用いて－
仲 沙織 (福岡大学大学院人文科学研究科／水戸病院 臨床心理士)
- I-E1-4 伝えるって難しい？ ピア電話相談員養成講座1年間の軌跡
寺西 宏晃 (地域生活支援センターMOTA PSW)
- I-E1-5 発達障害者への地域におけるケアに関する文献検討
河野 由理 (名古屋大学大学院医学系研究科 准教授)
- I-E1-6 AAとサバイバーの運動を一括りにする言説の批判的検討——メアリー・オーヘイガンの指摘を基に
伊東 香純 (立命館大学大学院先端総合学術研究科 大学院生)

I-E2 ◆分科会⑥ 地域移行の課題と方策 (13:35~14:50)

P62-66

座長：永野 満 (稲城台病院 医師)

：宮下 大紀 (桜ヶ丘記念病院 看護師)

- I-E2-1 高齢・長期入院精神障害者の地域移行を考える
中尾 清隆 (社会福祉法人創志会 つくばライフサポートセンター PSW)
- I-E2-2 岡山市の退院支援 ～退院意欲の低い入院患者との協働～
川上 真紀 (岡山市こころの健康センター PSW)
- I-E2-3 精神科グループホームから見る「強制」から「協働」へのパラダイムシフト
～他職種連携を踏まえた支援者間の葛藤～
高井 智治 (NPO法人 E-SMILE 代表)
- I-E2-4 長期在院患者の退院・地域移行を推し進めるミクロ・メゾ戦略
－効果的支援のプログラム要素と連携クリニカルパスの結合による地域移行支援方策の提起－
古屋 龍太 (日本社会事業大学大学院 PSW)
- I-E2-5 効果をあげる地域移行・地域定着支援プログラムの構築
～病院・地域実践統合にむけた実践家参加型形成評価プロジェクト～
高野 悟史 (日本社会事業大学大学院 PSW)

I-E3 ◆分科会⑦ 地域支援2（15：00～16：30）

P67-72

座 長：比留間ちづ子（若年認知症社会参加支援センタージョイント 作業療法士）

- I-E3-1 大都市近郊駅前の多機能型精神科診療所にできること
～地域ケアと精神科クリニックの役割（第3報）～
金杉 和夫（金杉クリニック 医師）
- I-E3-2 生活訓練事業と訪問看護の協働による支援の考察 ～“その人らしい多様な生活”を支える視点から～
篠木 絵里（リカバリーセンター転 PSW）
- I-E3-3 地域における訪問型診療所の役割についての一考察 ～地域の困難事例を通して～
松浦 昂（楯築診療所 PSW）
- I-E3-4 多摩総合精神保健福祉センターによるアウトリーチ支援事業の効果について
梅野 充（多摩総合精神保健福祉センター 医師）
- I-E3-5 東京都民間事業者活用型短期宿泊モデル事業の実際 ～事例を通して見えてきたこと～
豊子 有純（NPO 法人多摩在宅支援センター円 グループホーム櫻の杜ハウス PSW）
- I-E3-6 コメディカルスタッフで立ち上げ・運営するACTチームの実践と可能性～Q-ACTモデルの提唱～
倉知 延章（九州産業大学／一般社団法人 Q-ACT PSW）

I-E4 ◆夜間交流集会①（18：00～20：00）

P73

I-E4-1 精神医療・福祉の現状を問う Part13

伊藤 博吉（医療法人桜桂会 犬山病院 看護師）

I-F1 ◆分科会⑧ 児童思春期・メンタルヘルス (9:50~10:50)

P74-77

座長 : 川上 保之 (かわかみ心療クリニック 医師)

I-F1-1 精神福祉における子育て支援 ～「子育て援助・支援ガイドライン」の構成視点から～

川島 麻子 (NPO 法人茨城県精神障害地域ケア研究会 PSW)

I-F1-2 『朝日新聞』夕刊記事事件」をめぐって——稲村博批判再考——

山岸 竜治 (日本大学生産工学部 PSW)

I-F1-3 スクールソーシャルワーカー活用事業の継続と発展に関する研究

～スクールソーシャルワーカーのエンパワーメントを支えるシステムに焦点を当てて～

山本 小百合 (富山子ども家庭福祉研究所 研究員)

I-F1-4 思春期外来 OT を始めて ～グループの2人のケースからみえたもの～

竹内 藍 (多摩あおば病院 作業療法士)

I-F2 ◆分科会⑨ 法と人権1 (11:00~12:15)

P78-82

座長 : 太田 順一郎 (岡山市こころの健康センター 医師)

I-F2-1 東京精神病院事情 (ありのまま) @病・地多摩大会

山本 則昭 (東京都地域精神医療業務研究会 PSW)

I-F2-2 双極性感情障害患者の DV 相談における行政サービスの問題点

～DV 冤罪事例に対する家族からの考察～

前田 直 (杏林大学保健学部 作業療法士)

I-F2-3 精神医療国家賠償請求訴訟をめぐって

東谷 幸政 (精神国賠研究会事務局長/NPO 法人わくわく PSW)

I-F2-4 地域からの風を私たちは活かせるか？

～精神科病院の PSW と弁護士との「協働」のあり方を「出張法律相談」をとおして考える

保田 美幸 (いわくら病院 PSW)

I-F2-5 専門化される暴力

長谷川 唯 (日本学術振興会/京都府立大学 研修員)

I-F3 ◆シンポジウムC（14：00～16：30）

P83-86

「精神医療はハンセン病者の闘いから何を学ぶか」

世界の先進国の精神医療の流れは、1960年代からの地域ケア化の流れが定着している。それに較べて、わが国は、いまだに長期入院が続いておりベッド数の削減も進まない。

多くの精神科診療所が作られたが、社会的入院の解消には、程遠いのが現状である。

この現状をどう変えていくか？

一方で、ハンセン病の当事者たちは、司法の場での闘いを足場に、権利回復の足場を築いてきた。その背景には、長い間の条件改善要求の闘いや、大谷藤郎氏らの官僚、1800名もの弁護士の支援など、当事者運動をとりまく重層的な権利の回復への支援があった。

しかし、裁判で勝っても、その後の住まいをどうするかなど、問題も多く抱えているのが現実である。実際に地域社会に戻ることを希望するハンセン病患者は少数であった。障害当事者の価値観は多様である。それへの対応も多様でなくてはならないだろう。

このシンポジウムでは、精神医療の現状を変えるために、私たちは何をハンセンの闘いから学び、今、何をなすべきなのか、何をしてはならないのかを、当事者、研究者、法曹、それぞれから問題提起を受けて、一緒に考えて行きたい。

- 座長：中谷 真樹（住吉病院 院長）
 ：東谷 幸政（精神国賠研究会事務局長／NPO 法人わくわく PSW）
 シンポジスト：藤崎 陸安（全療協 事務局長）
 ：福岡 安則（埼玉大学 名誉教授）
 ：長谷川 敬祐（精神国賠研究会／西東京共同法律事務所 弁護士）
 ：山岸 倫子（社会福祉法人新栄会 ワーカー）

I-F4 ◆夜間交流集会②（18：00～20：00）

P87

- I-F4-1 長期在院精神障害者の地域移行を加速させる効果的な退院促進支援プログラムの検討
 ～現場支援者と研究プロジェクト協働による全国10地域との意見交換から～
 高野 悟史（日本社会事業大学大学院 PSW）

G会場（4F 学習室）

I-G1 ◆（理事会企画）診療報酬セミナー（14：30～16：30）

- 講師：福治 康秀（独立行政機構国立病院機構 琉球病院 院長）
 ：新垣 元（医療法人卯の会 新垣病院 理事長）
 ：蓑島 豪智（医療法人稲門会 いわくら病院 副院長）

1 1 月 7 日（金）総会 2 日目

B 会場（2F 小ホール）

Ⅱ-B 4 ◆斎藤環&向谷地生良トークセッション（9：30～12：30）

「今、なぜオープンダイアログか」

講 師 : 斎藤 環 (筑波大学医学医療系社会精神保健学研究室 教授)
: 向谷地 生良 (北海道医療大学看護福祉学部臨床福祉学科精神保健福祉講座 教授
社会福祉法人浦河べてるの家 理事)

Ⅱ-B 5 ◆シンポジウムD（13：30～15：30）

P89-93

「パラダイムシフトへの序章～専門性を問う～」

専門性を語る時に、その目指す方向がどこに向いているかが問われる。私たちは「専門性」というと無前提に、当事者のために役立つと思っているが、実際にはそうではないことが多い。それは「専門性」・「専門家」という言葉に秘められた魔力にある。精神医療従事者の専門性の方向は、それぞれの領域の特化した病理の解明と治療等に向かっており、必ずしも人々の暮らしや生き方に向かっていくわけではない。無暗に専門家に依存するのではなく、多様な専門職の視線を私たちの暮らしに向けさせ、ベクトルを共有することが必要になってくる。暮らしに向かう専門性をどの様に作っていかかを考える時のキーワードは、他職種・他機関との連携、当事者・市民との協働、地域で当たり前になる暮らしのための街づくり、等になるうか。

本シンポジウムでは、精神保健医療福祉の現状を踏まえつつ、地域での暮らしを支えるという視点に立って、各職種の専門性を活かすためにはどの様に実践を展開すれば良いのか考える。「専門家のための専門性」から「当事者の暮らしに役立つ専門性」へのパラダイムシフトを考えて行きたい。シンポジストの方々のモデル的な実践を通して、私たち自身の思考のパラダイムを検討し、新しい時代の精神保健医療福祉の姿を、参加者と共に考えたいと考えている。

座 長 : 古屋 龍太 (日本社会事業大学大学院 PSW)
: 関口 明彦 (全国「精神病」者集団 運営委員 当事者)
シンポジスト : 渡邊 乾 (訪問看護ステーション KAZOC 作業療法士
／全国精神医療労働組合協議会 副代表)
: 森川 すいめい (認定 NPO 法人世界の医療団 医師)
: 飯野 雄治 (稲城市職員 ピアスタッフネットワーク リカバリーキャラバン隊
減薬サポート情報会議 リカバリーの学校調布校)
: 熊谷 彰人 (陽和病院 PSW)
: 原子 英樹 (NPO 法人多摩在宅支援センター円 訪問看護ステーション元 看護)

◆閉会式（15：45～16：15）

II-C2 ◆活動紹介・展示スペース (9:30~16:15)

E会場 (4F 第1会議室)

II-E5 ◆分科会⑩ 法と人権2 (9:40~10:25)

P94-96

座長 : 大塚 淳子 (平成帝京大学健康メディカル学部 PSW)

II-E5-1 青年期の精神保健ボランティア経験による心理的变化過程の検討

ー精神障害者へのイメージおよび自己意識に焦点をあててー

斎藤 綾乃 (明治学院大学大学院 大学院生)

II-E5-2 法的能力と医療保護入院

桐原 尚之 (全国「精神病」者集団 「精神病」者／日本学術振興会 特別研究員)

II-E5-3 精神障害者と自動車運転をめぐる問題

中島 直 (医療法人社団新新会 多摩あおば病院 医師)

II-E6 ◆特別報告 (10:30~12:00)

「東京多摩地区の精神科病院の現状」

座長 : 金杉 和夫 (金杉クリニック 医師)

講師 : 長谷川 利夫 (杏林大学保健学部作業療法学科精神障害作業療法学研究室 教授)

: 木村 朋子 (第58回日本病院・地域精神医学会総会実行委員 PSW)

「精神科病院薬剤師の過去と未来

－過去の検証から精神科病院薬剤師の未来を考える－

精神科病院における薬剤管理指導業務が始まってから約25年が経過しています。本業務が始まった時代は、未だ、医師・看護師等からの薬剤師の患者に対する業務の評価は低いものでした。現在、四半世紀が経過し、薬剤管理指導業務は、薬剤師の通常の業務として評価されていると考えますが、様々な問題から、その業務が十分に機能しているとは考えられません。このような状況の中、過去の業務を検証し、精神科病薬剤師の未来について議論したいと考えます。

- | | | | |
|-----|---|-------|---------------------------------------|
| 座 長 | : | 吉尾 隆 | （東邦大学薬学部医療薬学教育センター臨床薬学研究室 教授） |
| | : | 佐藤 康一 | （桜ヶ丘記念病院 薬剤師） |
| 講 師 | : | 石田 保美 | （福間病院 薬剤師） |
| | : | 坂野 達明 | （豊田西病院 薬剤師） |
| | : | 谷藤 弘淳 | （こだまホスピタル 薬剤師） |
| | : | 永井 努 | （昭和大学薬学部病院薬剤学講座
昭和大学附属烏山病院 薬局 薬剤師） |

Ⅱ-F5 ◆分科会⑪ 生活習慣病への介入 (9:40~10:25)

P101-103

座長 : 岩崎 秀幸 (東京武蔵野病院 栄養士)

: 水野 雅恵 (桜ヶ丘記念病院 薬剤師)

Ⅱ-F5-1 精神科長期入院患者の生活習慣病への運動介入を試みて ―行動変容ステージモデルを用いて―

齋藤 元 (特定医療法人清和会 鹿沼病院 看護師)

Ⅱ-F5-2 訪問支援を通して見えてくる利用者の現状と継続的な支援について

古川 稔章 (円祐会 たまこヒルズ 生活指導員)

Ⅱ-F5-3 生活習慣病と食生活 精神科病院における外来栄養指導から認められた食行動

阿部 文乃 (桜ヶ丘記念病院 管理栄養士)

Ⅱ-F6 ◆分科会⑫ デイケアの取り組み (10:35~11:50)

P104-108

座長 : 羽藤 邦利 (NPO 法人メンタルケア協議会 医師)

: 原田 奈津子 (桜ヶ丘記念病院 看護師)

Ⅱ-F6-1 働きたい?結婚したい?これからどうしたい? Bar・TAKADA へようこそ

高田 祥子 (多摩あおば病院 看護師)

Ⅱ-F6-2 デイケアにおける疾患別 SST の試み

石井 睦子 (医療法人社団正神会 あいクリニック デイケアかしの木 臨床心理士)

Ⅱ-F6-3 精神科デイケアプログラムにおける「茶の湯プログラム」の生理的指標に基づく効果

清水 北斗 (医療法人社団正神会 あいクリニック デイケアかしの木 臨床心理士)

Ⅱ-F6-4 デイケアにおける第3世代認知行動療法(マインドフルネス)の効果Ⅱ

―単科精神病院デイケアにおける第3世代認知行動療法の実践報告Ⅱ―

藤田 貴士 (医療法人桜桂会 犬山病院 集団精神療法士)

Ⅱ-F6-5 デイケアが主体となって取り組んだ復職支援 ―本人の可能性を信じて―

島田 美香 (宮城県立精神科医療センター 保健師)

抄 録

1 日 目 1 1 月 6 日 (金)



第58回 日本病院・地域精神医学会総会
東京多摩総会 事務局

〒206-0021 東京都多摩市連光寺1-1-1 桜ヶ丘記念病院内
TEL & FAX: 042-338-0681 E-mail: byochi58tama@nifty.com